

浄土



特別寄稿

お念仏の常識をくつがえした法然上人 小澤憲珠台下
表紙の林錦洞の金文文字に寄せて 林 清方

佐藤良純追悼特集

佐藤先生を偲んで 阿川文正台下 齋藤昭俊 宇高良哲

浄土

2023/1月号 目次

《特別寄稿》

お念仏の常識をくつがえした法然上人…………… 小澤憲珠台下 2

《佐藤良純追悼特集》

佐藤良純会長に感謝を込めて…………… 7

佐藤良純先生を偲んで…………… 阿川文正台下 10

佐藤良純さんを悼んで…………… 齋藤昭俊 14

佐藤良純先生を偲んで…………… 宇高良哲 16

佐藤良純先生を偲んで…………… 長谷川岱潤 18

佐藤良純 略歴…………… 20

アーカイブ なぜいま法然上人鑽仰か…………… 佐藤良純 22

法然上人の言葉⑨ 義なきを義とする…………… 阿満利磨 24

寺々刻々⑳ 東京都立青山葬儀所…………… 鶴飼秀徳 28

林海庵・開教奮闘記 念願の本堂建立！…………… 笠原泰淳 32

漫画「浄土宗のお祖師様」三祖良忠上人㉑…………… ぐんじまん 37

あなたもお寺のCIO⑩ 今年こそ書類の電子化をはじめよう… 小路竜嗣 40

微風吹動 無言の共感…………… 工藤量導 44

江戸日本の街道探訪 第21回 奥州街道1…………… 森 清鑑 48

みんなの境内 表紙の林錦洞の金文文字に寄せて…………… 林清方 54

編集後記…………… 60

表2 古物漂流㉒…………… 三宅政吉

表紙題字=中村康隆元浄土門主

表紙絵=貞林院瑞正寺二十五世 林錦洞「華」金文文字

アートディレクション=近藤十四郎

6

念願の本堂建立！

開教奮闘記

林海庵開山上人

笠原泰淳



かさはら たいじゅん

昭和三十三年東京生まれ。慶応大学経済学部卒。日本通運（株）に入社、八年勤務し浄土宗東京教区貞源寺の故藤木芳清師に師事。佛教大学に学び、浄土宗僧階取得。東京教区心光院に約十年勤務。平成十四年「林海庵」を設立。翌年、同寺が浄土宗寺院として承認され住職となる。現在、浄土宗開教振興協会副理事長。

念仏会を始めて一年余り経ったときのこと。

毎回、おつとめのあとで茶話会を行っているが、そのときある信徒さんからこのような話が出た。

「やっぱり独立した建物のお寺が欲しいわよね。」

この開教寺院は、以前書いたように賃貸マンションの一室からスタートした。九畳半の部屋を仏間として本尊さまを迎え、月一回の念仏会を行なっている。毎回参加して下さる方々はすっかりお馴染みになり、彼らから率直なご意見を聞かせて頂く。このときも、何気ない雑談の中で出た話だ。私は、

「そうですね。」

と応じながらも、心の内では（お言葉はありがたいが、今はとても無理無理。土地建物を取得するなんて、一体何年先になることか…）と思っていた。先の方が続けて言われた。

「でも…私が生きている間は無理だわね。」

私はすぐに（残念ですが、そうかもしれない）

と思ったのだが、同時に微妙な思いが湧いてきた。

（「無理」と言われると、逆に何とかしたくなってくる…）

そのときはそれで終わった。だが他の信徒さんたちも次第に盛り上がってきて、不動産広告のチラシを次から次へと持ってきてくれるようになった。私も手をこまねいているわけにもいかず、手にした広告の物件を次々と見に行く。予算はともかくとして、適当な土地があるのかどうか探し始めた。このときに分かったのだが、都市再生機構（かつての住宅公団）が押さえているニュータウン内の土地は、宗教団体には譲ってくれないということだった。団地群に近い場所で土地を買いたいと思っていたので、これには落胆させられた。「宗教団体には譲らない。」その根拠は何だろう。だがここで怒ってみてもしょうがない。次善の物件を当てるしかない。

広い一戸建ての中古家屋を何軒か見た。その中

多摩市に一軒、背後（北側）に鬱蒼とした雑木のある家があった。東隣は公園、その向こうに老人ホームがある。環境は抜群で幹線道路にも近い。絶好の物件であった。不動産を探し始めてから三ヶ月ほどしか経っていなかった。

まだ取得できる時期ではない、とも思った。だが、これを逃すと次に良い物件に巡り合えるのは何年先のことになるだろう。

新築は無理として、今ある建物を改修して寺として使えるのか。そもそも資金的に取得可能なのか。この二点だ。急いで検討に入った。

信徒の中に建築士の方がおられたので、建物を見てもらう。一階に和室の続きの間があった。柱を外して一つの部屋（本堂）として使えるだろうか。耐震上、問題はないか。大丈夫とのこと。次は資金だ。

ちょうどその頃、浄土宗開教振興協会で貸付制度を作ってもらえるという話が出ていた。埼玉県

所沢市で開教されていた自然寺の開山藤木雅清上人が、協会宛に嘆願書を出していたのだ。

不動産の購入はタイミングが肝心だ。良い物件が売りに出た時にすぐ資金の手当てができないと、他の買い手に渡ってしまう。すぐに資金の目処が立つように、開教振興協会が貸付してくれるようにしてもらえないか。このような趣旨の嘆願書だ。銀行に頼めばすぐに貸してくれるだろう、と思われるかもしれないが、この段階ではまだ法人格がないので個人名義での借入れということになる。私が寺から支給されていた給与では、「お金は貸せません。もう少し長期の実績がないと……」これが当時の銀行の返事だった。

どうやら開教振興協会から借入れができそうだが、このような情報が入ったので、契約を結ぶことにした。平成十七年の二月だった。

ところが開教振興協会から借入れができるのは、次の理事会が開かれる六月以降だとのこと。売主



林海庵の看板は笠原住職の下書きをお念仏の会に参加された信徒さんが彫ったもの

に無理を言って支払い期限を六月末まで延ばしてもらった。違約金は二〇%。

宗務庁の担当者に尋ねた。

「確実に借りられるのでしょうか。」

「大丈夫だと思いますけど。」

「『思います』って?。」

「理事会で決まらないことにはねえ。」

「借りられないということもあり得る?」

「理事会の議決ですから。」

「でも、もし借りられなかったら違約金を一五〇〇万円払って、しかも何も手に入らないということですよ。」

もちろんそんなお金はない。

「そのときは…」

と担当者氏。

「そのときは?」

「誰かが首をくくるしかないでしょうね。」

「えっ 首をくくる?」

「私は嫌ですから。」

すると私が首を? 冗談ですよね? だがどの

程度の冗談なのか。六月初旬の理事会の議決まで、気が気ではなかった。

幸いなことに、理事会では無事に貸付けが決まった。首をくくらずに済んだ。当時の開教振興

協会会長は水谷幸正宗務総長（当時）。命の恩人である。また、誤解のないように言っておくが、先の宗務庁の担当者は、この貸付制度をふくむ浄土宗の開教施策に多大な尽力をされた方だ。林海庵の開山落慶法要にも参列下さり、とても喜んで下さった。

先に触れた埼玉の開教寺院自然寺も、賃貸物件から活動をスタートされ、この貸付制度を利用して土地建物を購入された。これまで浄土宗開教振興協会の貸付制度を利用した国内開教寺院は、この二か寺である。

土地建物取得直後から改修工事を開始し、三ヶ月後に竣工した。

最近知ったことだ。多摩市の新しい寺の工事中、信徒さん方が度々様子を見にきて下さっていたらしい。また、寺には「浄土宗 林海庵」と彫った看板を掲げてある。下書きは私が書いたが、お念

仏の会に参加される信徒さん方が少しづつ字を彫って下さったものだ。移転前には皆で建物の中全部を掃除をして下さった。たくさん檀信徒からご寄付を頂いた。中には「新しいお寺ができるのに立ち会うことができ幸いです」と言葉を添えて下さる方もいた。何とありがたいことか。

宗内のご寺院からも多くご寄付を頂いた。きつちりご返礼をしなければならぬのだが、余裕がなくて今だに失礼したままだ。何卒ご寛恕下さいますように。この場を借りてお詫びいたします。せめて御恩を遠くからお返しするように努めます。

ある大先輩は、冗談混じりにこう言ってお下さった。

「開山上人は、かいさんで（返さんで）いいんだよ。」
これから開山しようという方がおられたら、覚えておかれるとよい。
（つづく）